

2008年3月1日

「平成19年度 富山大会（東海北陸ブロック）」に参加しました

関東甲信越建築士会ブロック会青年協議会
富山大会視察理事（代表 山岡治）



□13:00~13:30/開会式

富山大会の幕開け

大会参加者数は、約120名。会場の後部のテーブルを荷物置場として各自で使用（参加登録の際のクロークはナシ）。後ほど、空調が効きすぎて熱かったという声を多数聞いた。また、一部の県の到着が送れ、開催時間20分ほど遅れた。青年建築士協議会と、女性建築士協議会との合同開催でした。



□13:30~17:00/第1分科会

ものづくり体験「夢のおうち発表会・ペーパーハウスをつくろう！」

第1分科会では、ものづくり体験「夢のおうち発表会・ペーパーハウスをつくろう！」というイベントが開催され、富山県内の園児、及び、保護者（クライアント）と混合グループを結成し、協働でダンボールハウスの製作を行うというものです。東海北陸ブロックの青年建築士約60名と園児+保護者約80名で開催。この分科会の目的は、「ものづくりの楽しさ」や「クライアントと建築士との関係」といった、これまで大切にしてきた建築士のあり方を再確認することです。事前に園児から用意された「夢のおうち」の絵を参考にペーパーハウスの制作・装飾を行いました。青年建築士も小さなクライアントの見事な絵と熱意に打たれ、いい作品を造ろうと、どこのチームも一生懸命でした。出来上がったペーパーハウスに園児たちは喜んでいました。また、「ものづくりの楽しさ」等の目的も再確認できました。保護者たちも「建築士会」という団体の活動の一部を知ることとなり、建築士会にとって良いアピールになっていると思います。



□13:30~15:00/第2分科会基調講演

まちづくり提案「コンパクトシティで見つける建築士の役割」前半

第2分科会の参加者は、約70名。開会式後、係員の誘導に従い、会場内の別室へ移動。前半は、富山市長の森雅志氏による基調講演が行われ、富山市の行政的取組みについてご説明頂いた。その内容が非常に分かり易く、現在、富山市が抱えている課題、それに対する行政的な取組み、その経過報告など、予算、効果、ビジョン、ターゲット、そしてそれらの結果データが明快でよく理解できた。行政側の話を講演形式で聞く場合、単調で、かつ、理想論が多く、データも曖昧でつまらないことが多いが、富山市の取組みは、日本初という行動力に満ち溢れ、さらに、やりっぱなしにもせず、丁寧にデータを集め、そしてそれらをきちんと検証しており、実際、徐々にその成果が上がりつつある。市長には次の予定が入っており、開会式が20分遅れたことで早送りの講演となってしまったが、その20分間が惜しく、もっと話を聞きたいと思いました。



□15:00~17:00/第2分科会フィールドワーク

まちづくり提案「コンパクトシティで見つける建築士の役割」後半

基調講演終了後、2チームに分かれて現地を視察。2つの目的があり、1つは、富山市が取り組んでいるライトレールという交通手段を利用した街づくりの視察、もう1つが、岩瀬町の街修景事業の視察です。ライトレールに実際に乗車したり、富山国際職業大学教授の上野幸夫氏にガイドをして頂きながら、岩瀬町の歴史や建築手法を実際に見学してきました。天候の影響で寒かったことと、ここでも開会式が20分遅れたことが影響し、ここでも早送り視察となりましたが、岩瀬町を通して、富山の歴史や文化、建築手法に深く触れることができました。



□17:15~17:45/全大会

有意義な全大会

全大会で特筆すべきは、連合会青年委員による報告の他、各県による活動報告があったことです。活動内容については、発言要旨集の中に各県ごとに掲載されており、他県がどういった事業活動を行い、どんな成果を上げているのかについて、各県の委員長が壇上で簡潔に発表していきます。三重県の木造塾や、静岡の職人体験セミナーなど若手参加者が集まりそうな事業が大変活性化している印象を受けました。また、連合会の取組みやビジョンを全大会にて、参加者全員に分かり易く発表するという時間を設けていることも今後、関ブロ大会でも行うべきと感じました。



□18:00~20:00/懇親会

一体感のある懇親会

全大会終了後、同じ施設内の懇親会会場へ移動。ここでは、施設側でクロークを用意されました。コートについては、会場入口付近にハンガースペースが用意されており、そこに各自でかけます。テーブルは、各県がバラバラに配席されており、名刺交換したり、大会の感想を互いに述べ合ったりしていました（中国四国ブロックの大会にも参加したことがあります。同様でした）。そのためか、参加者全体が県単位で固まらず、ブロック全体で大会を楽しまれているように感じました。近畿建築士会協議会青年部会（近建青）からも約10名参加されていましたが、毎年、参加している

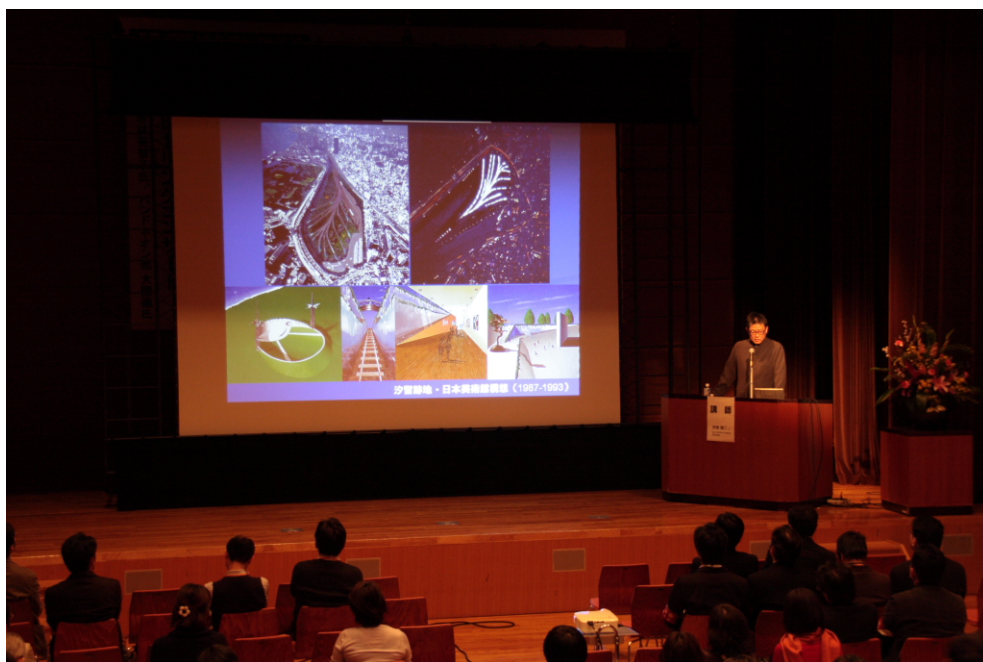
こともあり、自分達のブロック大会のように参加者と一緒に盛り上がりおりました。また、次回の近建青の大会イベントのチラシを参加者へと配ったり、東海北陸ブロックの発言要旨集と一緒に、近建青の活動をまとめた冊子が同封されてました。



□9：50～10：30/ヒーリングコンサート

若林美智子氏による胡弓演奏

大会2日目は、若林美智子氏による胡弓演奏により幕を開けました。胡弓の調べだけでなく、胡弓と富山の繋がりについてもご説明頂きました。



□10：40～12：00/フォーラム（講演会+座談会）

富山大学芸術文化学部教授 伊藤順二氏による講演会

ヒーリングコンサートに引き続き、富山大学芸術文化学部教授 伊藤順二氏による講演が行われました。これがこの他、面白い、会場から何度も笑いを引き出していました。伊藤氏は、有名な日本の芸術文化振興の第1人者です。アート系のTV番組にもよく出演されてます。そもそも取組みの切り口が面白い、長崎県立美術館の館長をはじめ、アイボ、

アトム、ガンダムを共演させたイベントを開催したり、建築家/隈研吾氏らと共に様々な街づくり提案を行ったりしている。時間があっという間に過ぎました。尚、今回のヒーリングコンサートと講演会は、新規資格取得者（昨年合格された新建築士の方達）の歓迎を兼ねたイベントでもあり、その説明もありました。富山県の在住の新規資格取得者をあらかじめ招待していたそうです。

□12:10~12:30/閉会式

富山大会の閉幕

閉会式では、幹事所見、新・旧運営委員長挨拶、次年度前期ブロック大会開催案内が述べられました。幹事所見でも話がありましたが、今回の富山大会では、ブロック大会として新たな試みを導入しており（第1分科会、第2分科会と分科会形式とし、参加者が自由選択できるようにして参加意識を向上を狙ったこと等）、また、その内容もこれまでの大会の中で最も良かったそうです。マンネリ化しつつあるブロック大会をより魅力ある大会に変えていきましょう！という話もありました。実際、運営委員長の表氏は、大会運営を改革を今大会前に宣言していたことを壇上で話され、運営サイドの取組みについて参加者に分かり易く説明されておりました。この富山大会視察によって、様々な刺激を受けました。関ブロ大会の活性化につながるようなアイデアや取組み方については、積極的に今後の大会運営に導入していきたいと考えおります。尚、近建青のブロック長と共に、山岡会長も壇上で富山大会の感想と関ブロ栃木大会のアピールを行いました。

以上